

塩田庄兵衛教授退任記念論文集 の刊行にさいして

経済学部長 小 野 一 郎

塩田庄兵衛先生は来る1987年3月末日をもって定年により立命館大学教授の職を退かれます。先生が経済学部赶赴されて早くも10年余を閱しますが、この間の先生の多大の御功績をたたえ、ここにささやかながら御退任記念論文集を『立命館経済学』に特集することとしました。

先生は1943年東京大学経済学部を御卒業後、同学部大学院特別研究生を経て1946年東京大学社会科学研究所助手になられ、その後1950年から1973年に経済学部教授の職を辞されるまで東京都立大学で教鞭をとられました。同大学での永年の御貢献にたいして先生は東京都立大学名誉教授の称号を受けておられます。

先生が本学に着任されたのは1974年でしたが、以来今日まで経済学部教授として労働運動・社会政策関係の科目を担当してこられました。またこの間先生は学部長などとして全学と学部の運営の重責を担われるにとどまらず、関係学会や本学経済・経営関連教員の広い支持をえられて日本学術会議会員として重要な役割を果されました。御赴任以来13年間の先生の御功労は格別であり、立命館大学名誉教授の称号をお贈りすることといたしております。

先生は御専門の点では、同郷土佐の先達である幸徳秋水の思想の研究を手始めに、40年以上も日本の社会・労働運動の歴史研究ひとすじに打込んでこられました。先生は数々の御著作のなかで明治から現在にかけての近・現代日本史を大きなスケールで把握されて、中江兆民あるいは大逆事件などからレッドパージや安保闘争などに至る社会・労働運動史上の顕著な事象を深く分析しておられますが、その対象は労働運動、協同組合運動、公害問題、平和・民主主義

問題，社会主義運動，統一戦線運動などきわめて広い領域に及んでいます。本論文集に学部内外の方々から社会運動の様々な領域にわたって論稿をお寄せ頂けたことは，先生の御業績と御人徳にたいする学界の評価のあらわれでありましょう。

先生はまた社会運動の研究者としての学問的信念に誠実に，学問と社会实践の統一という容易ならざる道を倦むことなく追求してこられました。ここに先生の真骨頂を見る思いがいたしますが，科学者運動あるいは平和運動や革新統一戦線を志向する運動などへの先生の御寄与は，わが国はもとより国際的にも関係各界で広く声望をえておられるところと承知しております。

このような先生から私ども教職員・学生は実に多くのものをお教え頂いてまいりましたが，日常の先生は細やかな心遣いと豊かな知的ユーモアで周囲を暖かにして下さいました。先生が経済学部を去られるいま，私どもの惜別の情はひとしおであります。今後も引続いて何彼と御指導下さいますようお願い申し上げますとともに，いっそうの御活躍と御健勝とをお祈り申し上げて先生をお送りすることばとさせていただきます。

1987年2月